第３　気象

○　気象は、温和で年間総降雨量は、約 1,600～2,100mm である。

○　年間平均気温は約 17 度、最高気温平均は約 21 度、最低気温平均は約 13 度である。

＜気温・湿度・風速・日照・降水・天気等日数＞

区分			単位	令和元年	令和2年	令和3年
気温	平均		℃	16.5	16.5	16.6
気温	最高気温平均		℃	20.9	21.0	21.3
気温	最低気温平均		℃	12.8	12.8	12.8
平均相対湿度			%	70	71	69
風速	平均		m/s	2.9	2.8	2.7
風速	最大	風速	m/s	17.8	13.1	12.4
風速	最大	風向		南南東	北西	南
風速	最大	起日		10 月 12 日	3 月 16 日	8 月 9 日
日照	日照時間		時間	1909.0	1889.5	2089.8
日照	日照率		%	43	43	47
降水量	合計		mm	1874.0	1590.0	2052.5
降水量	最大日量	降水量	mm	209.5	132.0	138.5
降水量	最大日量	起日		10 月 12 日	4 月 13 日	8 月 15 日
天気等日数	快晴（平均雲量＜1.5）			35	29	45
天気等日数	曇天（平均雲量≧8.5）			153	156	145
天気等日数	雨（≧0.5mm）			131	135	124
天気等日数	雪			6	6	2
天気等日数	最深積雪（≧0cm）			3	1	0
天気等日数	霧			1	0	1
天気等日数	雷			12	17	15
天気等日数	不照			68	64	54
天気等日数	最大風速 10m/s 以上			10	12	11

注　1）気温、湿度、風速、日照、降水量及び天気等日数の観測場所は、東京（北の丸公園・大手町）である。

2）観測値は、年間を通しての合計値、平均値、最大値である。

3）雪と最深積雪の日数は、前年８月から当年７月までの寒候年の合計による値である。

（資料：気象庁、東京管区気象台）

＜地震回数＞

区分		平成28年	平成29年	平成30年
地震回数	震度1	10	17	14
地震回数	震度2	7	4	4
地震回数	震度3	4	0	0
地震回数	震度4	0	0	0
地震回数	震度5弱	0	0	0
地震回数	震度5強	0	0	0
地震回数	震度6弱	0	0	0
地震回数	震度6強	0	0	0
地震回数	震度7	0	0	0
地震回数	合計	21	21	18

注　1）地震回数は、国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点「小金井市本町」における震度１以上を観測した回数である。

（資料：気象庁、東京管区気象台）

2　交通

(1)　鉄道

○　鉄道は、市の中央部をJR中央本線が東西に横断しており、東から順に東小金井駅、武蔵小金井駅の2つの駅がある。市の南東部には西武多摩川線が走っており、新小金井駅が位置している。

＜小金井市内の各駅の1日当り平均乗降客数＞　〔単位：人〕

区　分	武蔵小金井駅	東小金井駅	新小金井駅
令和元年度	125,130	63,516	4,041
令和２年度	94,742	43,536	3,095
令和３年度	99,468	48,372	3,315

（資料：東日本旅客鉄道（株）八王子支社、西武鉄道（株））

(2)　バス

○　市内のバス交通は民間バス事業者が運営する路線と、市のコミュニティバス（CoCoバス、CoCoバス・ミニ）路線が走っている。

○　市内各鉄道駅を発着するバスの路線数は下表のとおりである。

＜小金井市内の鉄道駅におけるバス路線数＞　（令和4年4月現在）

	武蔵小金井駅	東小金井駅	新小金井駅
京王バス	17路線	3路線	2路線
西武バス	12路線	―	―
小田急バス	1路線	1路線	1路線
関東バス	1路線	―	―
CoCoバス（京王バス㈱が運行）	3路線	2路線	1路線
CoCoバス・ミニ（つくば観光交通㈱が運行）	1路線	―	―

（資料：小金井市）

○　小金井市コミュニティバス「CoCoバス」は、令和4年度末で導入から20周年を迎え、この間、JRの高架化や再開発事業等が進められ、市内の交通状況等が変化してきたことから、CoCoバスの総合的な見直しを行うため、平成30年度から再編事業に着手している。令和4年度中に新たな運行ルート・運賃・ガイドライン等を策定し、令和5年4月から運行開始する予定である。

第５章　市、市民及び事業者の基本的責務

第１節　基本理念

○　地震による災害から一人でも多くの生命及び貴重な財産を守るためには、まず第一に「自らの生命は自らが守る」という自己責任原則による自助の考え方、第二に地域における助け合いによって「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の考え方、この２つの理念に立つ市民と公助の役割を果たす市とが、それぞれの責務と役割を明らかにしたうえで、連携を図っていくことが欠かせない。

○　地震による災害から市民の生活の場である市域を守ることは、行政に課せられた責務である。

○　震災対策の推進に当たっては、市が基礎的自治体として第一義的責任と役割を果たすものである。そのうえで、広域的役割を担う都や国と一体となって、市民と連携し、市民や市域に集う多くの人々の生命・身体及び財産を守るとともに、市域の様々な機能を維持しなければならない。

第２節　基本的責務

第１　市の責務

○　市は、災害対策のあらゆる施策を通じて、市民の生命、身体及び財産を災害から保護し、その安全を確保するとともに、被災後の市民生活の再建及び安定並びに都市の復興を図るため、最大の努力を払わなければならない。

○　市は、被災時における避難並びに救出、救助を円滑に行うため必要な体制の確立及び資器材の整備に努めなければならない。

○　市は、災害により重大な被害を受けた場合で、速やかに計画的な都市の復興等を図るため必要と認めるときは、小金井市災害復興本部を設置し、必要な対策を講じなければならない。

第２　市民の責務

○　市民は、災害による被害を防止するため、自己の安全の確保に努めるとともに、地域社会の一員として相互に協力し、市民全体の生命、身体及び財産の安全の確保に努めなければならない。

○　市民は、次に掲げる事項について、自ら災害に備える手段を講じるよう努めなければならない。

1　建築物その他の工作物の耐震性及び耐火性の確保
2　家具類の転倒・落下・移動の防止
3　出火の防止
4　初期消火に必要な用具の準備
5　飲料水及び食料の確保
6　避難の経路、場所及び方法並びに徒歩による帰宅経路についての確認
7　家族その他の緊急連絡を要する者との連絡手段の確保

	・武蔵小金井駅南口周辺では、JR 中央本線連続立体交差事業に伴う市街地再開発事業が完了し、駅前広場や不燃空間が整備されている。 ・武蔵小金井駅南口第2地区第一種市街地再開発事業は、令和3年5月に事業が完了した。 ・本町は市内でも木造の建物の密集の度合いが高い地域で狭あい道路が多く、本町2丁目で火災危険度がランク3と高い。
住　　宅	・本町3丁目は、防災都市づくり推進計画（東京都）において、「木造住宅密集地域」に指定されている。 ・本町3丁目の空家率が2.33%で高く、本町4丁目は1.68%で市平均1.48%を超えている。 ・空家率1%未満は、本町2丁目の0.76%、本町5丁目の0.86%である。
要配慮者等	・本町1～4、6丁目で高齢化率が20%を超え、特に本町4丁目は31.3%と市内で2番目に高い。 ・本町5丁目の高齢化率は17.9%で低く、町全体では22.2%と市全体21.2%よりやや高い。
避難場所	地域には3か所の一時避難場所がある。また、広域避難場所として都立小金井公園、東京学芸大学、東京農工大学工学部を指定しているが、本町2、3丁目では最寄りの広域避難場所までの距離が1km を超える地域がある。
災害履歴	・平成元年以降、本町での災害実績はない。

キ　関野町・桜町

位　　置	・市の北部にあり、五日市街道が東西に横断している。
地　　形	・地域の大部分には武蔵野面が分布している。
都市基盤	・五日市街道と小金井街道により延焼遮断帯の形成が図られている。 ・五日市街道は幹線道路であり、都立小金井公園もあることから、市内でも災害危険性の度合いが低い地域であると言える。 ・桜町1丁目は、狭あい道路が多く、災害時活動困難係数が0.33と高い。
住　　宅	・関野町の空家率は2つの丁目ともに市平均1.48%以下で、特に関野町1丁目は0.45%と低い。 ・桜町1丁目の空家率は1.54%で市全体1.48%より高いが、桜町2丁目は0.79%と低く、桜町3丁目は0%である。
要配慮者等	・関野町1丁目、桜町の各丁目の高齢化率が20%を超え、特に桜町1丁目の高齢化率は29.2%と高い。 ・桜町1丁目は、防災都市づくり推進計画（東京都）において、「農地を有し、防災性の維持・向上を図るべき地域」及び「不燃化の状況や住宅の密度が木造住宅密集地域と同等である地域」に指定されている。 ・桜町の高齢化率は町全体で26.8%となっており、市内では最も高い。
避難場所	・地域には3か所の一時避難場所がある。 ・地域内では、都立小金井公園を広域避難場所に指定している。
災害履歴	・平成元年以降、関野町及び桜町での災害実績はない。